

発行日: 2024年8月



SVPインサイトVol.33

ヘルステック（AI診断支援システム）

～国内市場の現状と将来展望～

本レポートは、2023年9月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供をしております。

ANNIVERSARY
50th
SVP JAPAN

I. 市場の定義

デジタル技術の開発が進む中で、医療・ヘルスケアの分野でもその活用が活発化しており「ヘルステック」として実用化が急速に進んでいる。領域としては、主に「診断・治療」「遠隔診断・治療」「バイタルセンシング」「運動・健康管理」が挙げられる。本レポートでは、「診断・治療」の領域で、特に市場の拡大が先行している「AI診断支援システム」に着目する。

AI診断支援システムは、医療画像をAIで解析して病変を自動判定する「AI画像診断支援システム」と、問診をAIで自動化する「AI問診システム」に分類される。これらのシステムは、オンプレミス型およびクラウド型で提供されており、医療現場での導入が進んでいる。

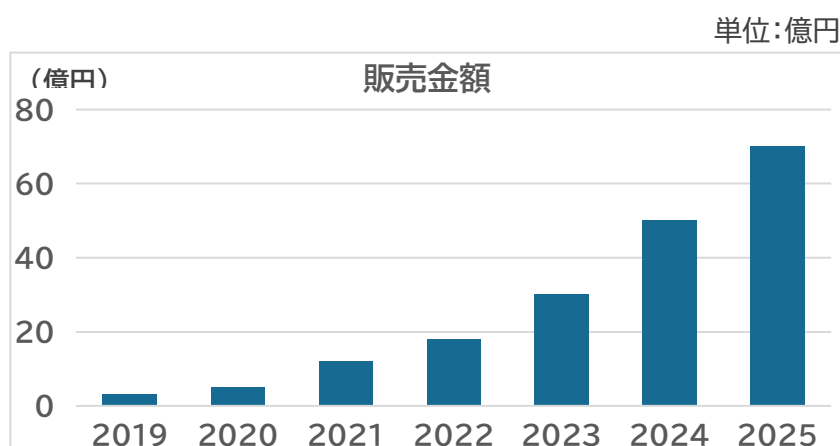
II. 市場動向

AI画像診断システムは、2019年から本格的に市場に導入され始め、特に内視鏡やCT、MRIなどの診断支援分野での成長が顕著である。日本国内では、CTやMRIの稼働台数が多いにもかかわらず、診断専門医の不足が課題であり、AI診断支援システムがその解決策として期待されている。特に、大腸内視鏡検査や胸部X線検査、眼底検査などでのAI活用が進んでおり、医師の負担軽減や診断の精度向上が期待されている。また、AI問診システムも、2018年にサービス提供が始まり、診療所を含めた医療施設での導入が進んでいる。電子カルテとの連携や診療の効率化、迅速な病気特定の効果が評価されており、今後も市場拡大が続くと予測される。

III. 市場規模・予測

2022年のAI診断支援システム市場規模は約18億円と推定される。市場はまだ導入期にあり、主にAI画像診断支援システムが市場を牽引しているが、今後も全体的に成長が続くと予測される。2025年には「AI診断支援システム」全体で、市場規模が約70億円に達すると見込まれており、クラウド型サービスの導入が進むことにより、今後、普及が加速していくと考えられる。また、診断支援の新たな分野へのAI活用も期待され、AI診断支援システム市場の拡大を支える要因となるであろう。今後、AI技術が進化し、より多様な診断支援が可能になることで、市場はさらなる成長を遂げる見込みである。

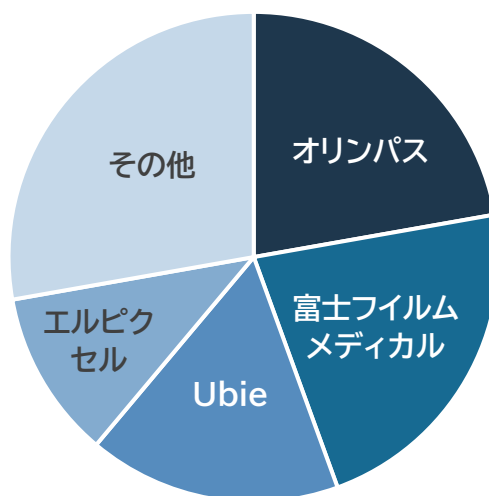
AI診断支援システム 市場規模推移



※調査対象製品の販売元、サービス提供事業者の売上ベース。SVPジャパン推定

IV. マーケットシェア

2022年のAI診断支援システム市場では、オリンパスと富士フィルムメディカルが、それぞれ22.2%のシェアを占め、主要プレーヤーとなっている。特に、内視鏡画像診断に強みを持つこれらの企業が市場をリードしている。その他、Ubieやエルピクセルなどの新興企業も市場に参入している。



※SVPジャパン調べ

V. 参入企業の動向

主要な参入企業には、オリンパスや富士フィルムメディカルといった大手医療機器メーカーがあり、内視鏡画像診断やCT、MRI画像の診断支援システムを提供している。これらの企業は、AI技術を用いた新製品の開発や海外企業との提携を通じて、市場での地位を強化している。また、Ubieやエルピクセルなどの医療系ベンチャーも、AI問診システムや画像解析技術を活用した製品で市場に参入しており、各種医療施設での導入が進んでいる。さらに、コニカミノルタジャパンやNECといった企業も、AIを活用した診断支援ソフトウェアの開発を行っており、AI技術を駆使した新しいサービスの展開が進んでいる。

VI. 業界構造

AI診断支援システムの開発・販売には、オリンパスや富士フィルムなどの大手医療機器メーカーから、エルピクセル、Ubieなどの医療系ベンチャー、富士通やNTTデータといったIT企業が参入している。

販売は直販や代理店経由で行われ、エルピクセルはカイゲンファーマを総代理店としている。

また、医療施設は、AI診断支援システムを導入するだけでなく、システムの共同開発や協力も行っている。オリンパスは昭和大学や名古屋大学と内視鏡検査製品を共同開発し、呉医療センターとAI病理診断支援ソフトの研究を進めている。NECや富士通なども、それぞれがんセンターや病院と連携し、AIを活用した診断支援システムを開発している。このように、医療施設と開発企業との協力が市場の成長を支えており、これからもAI技術の高度化と市場拡大を推進していくと考えられる。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動

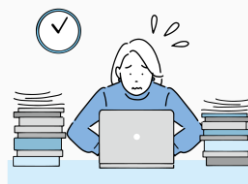


変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績
導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

TEL : 03-3249-0771

